

令和6年度

社会貢献事業

優秀実践アワード

(きらっと光る実践)

報 告 書

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 老人施設部会

はじめに

大阪府社会福祉協議会 老人施設部会の会員施設が、「私たちは、この地域（まち）を支えます」をフレーズに始めた社会貢献事業（生活困窮者レスキュー事業）は20年越え、“オール大阪の社会福祉法人”が連携・協働して取り組む地域貢献事業の「大阪しあわせネットワーク」は令和7年度に10周年を迎えます。

これまで、会員施設は、“社会福祉法人の使命”として、制度の狭間の生活困窮に対する経済的援助（現物給付）や、施設のコミュニティソーシャルワーカーと連携し相談支援を実施する社会貢献支援員の配置等、先駆的な取り組みを実践してきました。

また、地域の課題やニーズに向き合い、施設の専門性や強みを生かしながら、様々な地域貢献活動にも尽力してきました。さらに、様々な感染症が慢性化し、物価高騰や人材不足の厳しい状況にあっても、関係機関・団体と協働し、目の前の課題解決に向けて幅広く地域における公益的な取り組みにチャレンジしています。

このたび、昨年度に引き続き、このような取り組みにスポットを当て、継続性や独自性、先進性等について優れた実践を行っている会員施設を表彰し、内外に情報発信を行うことを通して、地域課題の解決および地域福祉の振興、さらに社会的評価の向上等を目的に、「優秀実践アワード（きらっと光る実践）」を実施しました。

本報告書には、9の実践（事例）と選考結果を掲載しております。このような社会貢献活動にがんばっている法人・施設の取り組みを知っていただくことで、施設関係者においては、地域における公益的な取り組みの具体的な実践の参考にさせていただきたい。また、福祉を学んでいる学生をはじめ福祉に興味・関心をお持ちの皆さんにおいては、地域福祉の担い手として取り組んでいる社会福祉法人が、あなたの身近にあることを知っていただきたい。

このような願いと期待をこめて、豊かな実践が広がることを目的にこの報告書を作成しました。発刊にあたり、あらためて、推薦書の提出や関係資料の提供にご協力いただきました皆様、選定にご協力いただきました選考委員の皆様には厚くお礼申し上げます。

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
老人施設部会長 西田 孝司

目次

（掲載事例・選考結果）

【大 賞】	社会福祉法人 桃林会 -とりかい白鷺園- 「青空市の開催から見えてきた自治力」……………	2
【優秀賞】	社会福祉法人 起生会 -ほほえみの園- 「多文化共生のまちに『ほほえみ食堂アジアン』がセンセーショナルを巻き起こす」……………	4
【優秀賞】	社会福祉法人 優心会 -こうのとり- 「地域の居場所について『こうのとりのタマゴ』が産む”笑顔”」……………	6
【奨励賞】 （若年教育）	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 -軽費老人ホーム 万寿荘- 「こども学習塾『さつきちゃん塾』の立ち上げ・実施運営」……………	8
【奨励賞】 （地域のつながり）	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 -東大阪養護老人ホーム- 「子ども食堂『Smile for All』～子供たちの笑顔溢れる未来のために～」……………	10
【奨励賞】 （多世代交流）	社会福祉法人 四恩学園 -ふれ愛の館しおん- 「地域創発スペースを活用し、結び目の実現」……………	12
【奨励賞】 （まちおこし）	社会福祉法人 秀幸福社会 -庄栄エルダーセンター- 「学生とのコラボで秋祭りを通して地域活性化」……………	14
【奨励賞】 （フレイル予防）	社会福祉法人 上神谷福祉会 -スポーツ高倉- 「機能訓練型デイサービスを活かして『VIVAスポーツ』で楽しみながら 地域の「健康寿命」を延ばす」……………	16
【奨励賞】 （地域貢献）	社会福祉法人 八尾隣保館 -養護老人ホーム心合寮- 「社会福祉法人の存在意義と使命である地域支援を持続可能な事業にするために」……………	18

令和6年度 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会 社会貢献事業「優秀実践アワード（きらっと光る実践）」募集要項（一部抜粋）……………	20
--	----

青空市の開催から見えてきた自治力



大 賞

社会福祉法人 桃林会

設立年月／昭和27年11月
法人所在地／大阪府摂津市鳥飼中1-19-8
理事長名／園田 和子
施設名／とりかい白鷺園
施設長名／百武 昭彦
施設所在地／大阪府摂津市鳥飼中1-19-8
問合せ／☎072-654-5094 ☎072-654-3494
✉hirota@shirasagien.com
担当：廣田 京平

実践の目的や背景

平成28年4月より青空市スタート

地域の社会資源の開発及び地域貢献事業の発掘を目的としてケアプランセンターが主導で活動してきた。摂津市は安威川を挟んで北側（高層マンションや駅、都市開発されている地域）と南側（駅までの距離も遠くバスに乗りしても駅まで30分以上かかる地域、高齢化率が高い地域）に分かれており、とりかい白鷺園は摂津市の南側に位置するところにあります。地域課題の高齢化やスーパーマーケットなどの閉店に伴い、手軽に買い物ができる環境、地域とのつながりができる環境を整備したい!と考え、買い物行くためにバスに乗って北側に行かずとも南側で充実した生活ができるように、とりかい白鷺園の施設玄関前をマルシェとすることで地域課題の改善に役立てることができるものとスーパーマーケット【青空市】を作りあげた。

青空市の出店は、地域で活動する企業、団体、個人に参画を呼びかけ、現在では13団体による町おこし事業として発展してきている。

実践内容

【活動日時】

毎月1回 第4火曜日 11時～13時

場所／とりかい白鷺園 玄関前スペース

※雨天決行(雨天でも来場者が多いため開催)

【参加団体】

- 野菜…詰め放題200円（近隣の青果加工配送会社より協力いただいています）
- 漬物屋…名産鳥飼なすを使った漬物等多くの食品を取り扱っています。

- 魚屋…移動販売の魚屋さん。新鮮な魚をその場でさばく
 - パン屋…摂津市の障害福祉事業と連携して販売
 - あなご屋…地域のあなごの卸売り会社からアナゴ弁当を提供（売り切れ注意）
 - 文字書き屋…漢字を生き物のように書いてくれる。いわゆる遊字屋さん
 - 雑貨屋…様々な手作りの雑貨は目で見ただけで楽しい気分となる。
 - ケーキ屋…摂津市で有名なケーキ屋さんアップルパイなどは即完売です。
 - 花屋…地域の老舗の花屋さん。高齢化にて今は休止中
 - しらすカフェ…地域の住民と白鷺園の職員との交流の場。低額に手作りスイーツを召し上がれます。
 - 介護相談ブース…ケアマネによる相談ブースを設置。
 - 医療相談ブース…看護師や理学療法士による健康相談
- ※費用は出店者が価格設定しています。来場者数は地域の方々、施設のご入居者やご利用者など、100名近い来場者が来て大変盛り上がっています。
- キッチンカー（かっぱラーメン）を呼ぼう!といった職員企画まで生まれて地域の方に、キッチンカーを楽しんでもいただいた。これからもラーメンだけではなくて色々なキッチンカーを青空市で展開できればと考えている。

活動体制

ケアプランセンターのスタッフが主となって運営している。白鷺園全事業所のスタッフがサポート（手伝い）として青空市を盛り上げています。出店事業者は、摂津市内で活動されている団体を招いて摂津市を盛り上げる、地域のニーズに応えていただける団体に参加していただいている。パン販売をしているバクのパン屋さんは、社会福祉法人光摂会が運営する就労継続支援B型事業所として平成22年に開設しました。

一人ひとりの働きたいという気持ちを大切に、誰もが働くことを通して社会の一員として地域でいきいき過ごせることを目指している団体です。手作りのパンで大変好評です。

実践の効果・成果

地域の社会資源の開発及び社会貢献事業の発掘を目的として【青空市】を開催してきました。平成28年から継続して活動してきたことから地域からの評判も上がってきました。出店事業者も増えたことから大変にぎやかなイベントとなっています。安威川南地区に位置する白鷺園としては、南側の開

発、住みよい街にしたいという思いが地域の活性化に役も二役も担うことができるように地域の町おこし、摂津市企業の応援及びブランディング、地域の高齢化における資源開発、地域との関係性作り、地域住民の交流場所、世代間交流、施設のご利用者の楽しみの場を提供し続け、施設理念の『地域から愛される施設づくり』地域ニーズに答える施設として、これからは地域課題と向き合って解決できる仕組みづくりを行い、地域振興に役立てるように活動をしていきます。

今年度印象に残っている、もしくは力を入れた事例

キッチンカー（かっぱラーメン）を呼ぼう!

青空市への地域への認知は着実に広まりを見せている中で市場としての領域では、5月に【河童ラーメン本舗】様のキッチンカーに来てもらいました。この企画は2法人3事業所のリーダー研修から生まれた企画で、開催日は、あいにくにも大雨と天候には恵まれなかったものの、悪天候の中でも物珍しいラーメン店の出現に地域の方々をはじめとして施設利用者、職員がキッチンカーの前に行列をつくり1時間程度で売切れ御免となりました。施設のご利用者には屋台で食べるラーメンの味はどこか懐かしく思えたのではないのでしょうか。

また人と人とのつながりという領域では地域の方々が参加してカフェコーナーを切り盛りしてくれる姿や青空市のお野菜の陳列を地域の方々がお手伝いしてくれるなど地域における自治力の向上へとつながってきている。また、青空市をきっかけとして、定期的にご入居者へのパン販売が行われるようになり、白鷺園イベントへの参画という点では、ハンドメイド職人による、施設のご入所者やご家族が共同して作成できる雑貨（フラワーアレンジメント）も定期開催することとなりご入所者のQOL（生活の質）の向上に役立っている。

課題と展望

地域福祉や社会福祉として青空市を展開してまもなく9年になります。

活動風景



青空市というスペースは我々関係者にとってモノの売買自体が大きな目的ではありません。

『ここに来ればあの人に会える』『ここにくれば困ったことの相談ができる』『ここにくれば元気がもらえる』『ここにくれば新しい出会いが増える』など、これらすべてはただの売買だけで手に入るものではありませんし、自然発生するものでもないと考えます。何かカラクリがあるとすれば

- ①主となる【リーダーの魅力】
- ②住民による自治的な市場運営が中間集団となり【仲間意識】を育む
- ③ステークホルダーによる人間味のある関りが、より多くの人の関係性と距離感を縮めるであろうと考え、上記の将来的なビジョンを見据え行動に移していければと考えます。

地域の自治力を高めることで鳥飼地区の地域共生社会として制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指していきたいです。

選考委員からのコメント

- 施設理念に沿って、地域との関係づくりを育みながら実践されている事例だと感じました。多種多様な団体等が徐々に増えていき、主催者も参加者も楽しみながら運営されている様子が分かります。
- 定期的な開催かつ生活品の販売という点で、気軽に参加できる環境となり、結果、地域のコミュニティ強化になっている。買い物支援の新たな形。
- 地域のニーズに合致した継続性のある取り組み。地域福祉力の育成効果も期待でき、先駆的で魅力ある活動です。
- 地域に開かれた取り組みで、地域住民、施設入居者や利用者、職員が交わる機会となり、継続することで顔の見える関係にもつながる。

多文化共生のまちに「ほほえみ食堂アジア」が センセーショナルを巻き起こす



優秀賞

社会福祉法人 起生会

設立年月／平成8年8月1日

法人所在地／大阪府池田市建石町8-10

理事長名／吉井 順子

施設所在地／大阪府池田市建石町8-10

施設名／ほほえみの園

施設長名／山田 直輝

問合せ／☎072-751-9494 ☎072-751-9664

✉naoki-yamada@hohoemi-no-sono.or.jp

担当：山田 直輝

活動体制

2023年の4月より、社会福祉法人と共に社会貢献活動をより効果的にできるよう特定非営利活動法人として派生した心豊かな共生のまちを目指す「スボイの会」との伴走で「ほほえみ食堂アジア」を考案し、多世代と多文化を交流した居場所づくりを目的にキリン福祉財団の地域のちからの助成金を活用して、食事提供と開催場所は高齢者施設より離して地域に出ることから始めました。池田市保健福祉総合センターの調理実習室で行うこと、調理はこれまで地域で共に「男の介護教室」で活動した「池田栄養士会葉菜の会」に宗教上、食せない食材などに配慮をした食事提供を依頼した。食材は池田市社会福祉協議会とフードパントリーを地域活動としてきた経緯もあり、お米など食堂への支援として頂いている。

実践の効果・成果

まず、池田市にできた外国人留学生の介護専門学校の卒業生が増えることを考えた。介護ビザの取得で家族滞在が可能になるため、家族での食堂参加が将来的に見込まれていたこと、保健福祉総合センターでは日本語ボランティアによる外国人の方々のための日本語学習もあり先生と学習後に来場してくれることが見込まれていた。栄養士会葉菜の会の安全安心の料理は池田市内の子育て世代にも知られていることでこれまでの子ども食堂に来ていた子たちが来てくれることも考えていた。活動の場があればボランティアがコロナ後に動き出してくれることを願っていた。多文化共生の食堂が現実になり、参加者が笑顔で交流する姿、ほほえましい光景に実現した形は間違いではなかったと感じています。

今年度印象に残っている、もしくは力を入れた事例

今年度に入る1日前にあたる3月31日がイスラム教徒のラマダン（断食）明けにあたり、いつものお昼開催を変更してイスラム教徒の方々が断食明けで食べれる時刻に変更して開催しました。興味深く参加くださった高齢の方や子ども達は、インドネシア人の参加者のラマダン明けの合図でお食事を開始することにご理解いただき、一緒にラマダン明けの食事を楽しみました。感慨深くインドネシア人の参加者は自分たちの宗教や文化を大事に配慮してくれたことに喜んでくれていました。

今年度に入り、2018年に考案していた外国人介護士交流会を食堂に来ていた介護士や多職種の方、池田にとらわれず多方面からフィリピン、ネパール、インドネシア、ミャンマー、タイ、ベトナムの介護士や興味のある外国人学生達が参加した一大イベントを行った。

外国人介護士を代表してフィリピン出身のEPA一期生で現在は特養で副施設長として活躍する大先輩からの応援スピーチや、池田市市長もご興味頂き、スピーチ、お声かけ、グループディスカッションに参加して下さるなど、外国人介護士30名、留学生等10数名、日本語学習講師やポプラ学園、大阪青山大学の介護学科の先生や関係者等で50名以上の参加者が集いました。食事は軽食を用意してアジアのデザートのみなどで食しました。

課題と展望

地域のなくてはならない居場所となり、継続してあらゆるニーズに合わせて発展していくことを期待しています。印象

に残ったことに書ききれなかったので、出張食堂として障がい者施設にお邪魔して多文化に触れる活動となったことを考えると、池田市にとらわれずどの地域にもこのような取り組みができるようサポートしていきたいです。私たちは社会福祉法人と特定非営利活動法人の両輪で地域福祉に寄与し、たくさんの協力者や団体と連携していくことでどちらの良さも最大限に、ウィンウィンな関係を構築し活かせるよう努力していきたいと考えています。

選考委員からのコメント

- 孤立を防ぐ取組として、外国人の方への支援に着目されたのは、独自性があると感じました。料理を通して、お互いの文化を知る機会を生み出し、多様性を受け入れる地域づくりに貢献されていると感じます。
- 外国籍の福祉従事者のプラットフォームづくりとして高く評価したい。今後、日本がしなければならない課題の先駆事例だと思います。

活動風景



地域の居場所について

～「こうのとりのタマゴ」が産む“笑顔”～



優秀賞

社会福祉法人 優心会

設立年月／平成23年12月1日

法人所在地／大阪市平野区長吉川辺3-2-3

理事長名／垣谷 隆太

施設名／特別養護老人ホームこうのと

施設長名／北野 智傑

施設所在地／大阪市平野区長吉川辺3-2-3

問合せ／☎06-6700-8000 ☎06-6700-8400

✉kounotori@yuushinkai.or.jp

担当：北野 智傑

実践の目的や背景

社会福祉法人 優心会は『あふれる笑顔』を理念としています。

この理念には「優心会に関わる全ての方が笑顔であふれるように」という想いが込められています。近隣小学校の登校時に見守り活動を行ってききましたが、その活動を通して出会った方々から、地域での課題についてお聞きする機会が増えていきました。そこで、引きこもり状態にある方、独り暮らし・老々世帯の高齢者、ひとり親世帯、障がい者世帯、地域で孤立している方、学習に悩み・課題を抱えている子供達、食の支援を必要としている方など、事前の地域課題確認や準備を経て、対象者を限定せずに誰もが気軽に立ち寄れる居場所を作ることができないかと思い、地域の居場所「こうのとりのタマゴ」という名称で開設しました。

実践内容

準備期間／2023年4月～2024年3月

初開催月／2024年4月

時期／第1日曜日 14:00～16:00

場所／社会福祉法人 優心会の敷地内

デイサービスセンターこうのと リビング(休業日)

回数／毎月

人数／制限なし

費用／無料

※開催にかかる費用については、企業・団体からの協力や助成金の活用を行い、運営。

活動体制

- 平野区社会福祉協議会(第1層・第2層生活支援コーディネーターを含む職員の皆様)
- 長原東地域活動協議会(町会役員や小学校・中学校のPTAなどの皆様)
- 社会福祉法人 優心会(職員)

平野区社会福祉協議会の職員は、定期的に来訪いただき、ご協力くださっています。助成金の活用における情報提供や、ネットワークの登録や会議への参画などの案内をいただいています。長原東地域活動協議会の方々は、当日の運営(準備・受付・物資配布など)を手伝って下さっています。また、地域の居場所「こうのとりのタマゴ」の運営協力が行いやすいように、定期開催されている高齢者食事サービス委員会の日程を、同日の午前中に変更して下さるなど、積極的なご協力をいただいています。その他、様々な企業・団体からご協力をいただいています。

実践の効果・成果

子供、ひとり親世帯、独り暮らしのご高齢者、自宅に引きこもり気味の方など、様々な方にお越しいただき、月に一度の開催となるため、毎回の開催を楽しみにお待ちいただいている声をお聞きしています。また、開催日以外でも気軽にお立ち寄りくださる方や、ボランティア活動のご相談をされる方なども増え、皆様が笑顔であふれている姿が見られます。地域の居場所「こうのとりのタマゴ」が、皆様の生活が潤う少ししたキッカケにもなっているものと考えます。活動を通して出会う方々の繋がりが深まってきており、独り暮らしや引きこもり気味の知人・友人を誘ってお越しいただくなど、地域内での交流の一助としても幾分かは担うことができているのではないかと考えます。

今年度印象に残っている、もしくは力を入れた事例

【印象に残っている出来事の一部】

- 生活困窮に悩んでいる家庭

今日食べる物にも困っている状況であることを話される。社会福祉協議会にも相談していたようで、当日は相談時に対応した社会福祉協議会の職員も来訪していたことから、怪しい催し物では無いと感じたとのことでした。その後も継続して来訪され、「助けてもらった分、運営協力や

イベント時などに協力したい」との想いをお聞きし、当日の片付けを手伝って下さるようになりました。

●子供たちの反応

小学校で「老人ホームに行ってきた」と友達に話をする「老人になったん(笑)」と茶化されたということでしたが、それでも開催を楽しみにしている様子で友達を誘っていいか相談がありました。

翌月の開催時には、友達を連れて来訪。継続して来訪に繋がるとともに、遊ぶだけでなく当日のかき氷づくりなども手伝ってくれるようになりました。

●多世代交流

一人暮らしの年配の方が、来場した面識のない子供たちに鶴(折り紙)の折り方を教えている姿が見受けられました。「一人で自宅にいるよりも、こうやって小さな子供達もいて気持ちが穏やかになる」との話でした。

●企業や団体による協力

活動趣旨をお伝えることで、開催前に支援協力の声をかけてくださるなど、積極的な支援に繋がっています。

課題と展望

開催回数は限られていますが、そのなかでも毎回のよう新たな交流が生まれ、繋がりが深まっていることを実感しています。

活動の理解を得るためには時間を要すると思いますが、地道に継続して活動を行っていくことで、理解も深まっていくのではないかと感じています。

社会福祉法人として、地域に根差した社会貢献(公益的な取り組み)を行うことが珍しいものとなっている現状にあるのではないかと感じています。

優心会で行っている事業の名前は、温かい恵を運んでくれる象徴(幸福を届ける鳥)として知られているコウノトリが由来となっています。

そんな「こうのと」が産んだタマゴから、たくさんの幸せが羽ばたいてくれることを願っています。

そのためにも、地域の居場所として様々な方からの応援・協力が必要になりますが、繋がりを大切にして、活動を継続・発展させていきたいと考えます。

選考委員からのコメント

■登下校時の見守り活動から、地域にある課題やニーズを把握する意識をもち実践に繋がっています。地域活動の取っ掛かりを身近な活動から始めているところが、他地域でも実践しやすい事例だと思います。

■与える人・受ける人の役割固定化でなく、持ちつ持たれつの関係性を地域で作っていることがエピソードから感じられた。

活動風景



こども学習塾「さつきちゃん塾」の 立ち上げ・実施運営



奨励賞(若年教育)

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団

設立年月／昭和46年3月25日
法人所在地／大阪府箕面市白鳥3-5-50
理事長名／行松 英明
施設名／軽費老人ホーム万寿荘
施設長名／謝 世業
施設所在地／大阪府池田市井口堂3-4-1
問合せ／☎072-761-6153 ☎072-760-2049
✉manju01@osj.or.jp
担当：岡本 楓代

実践の目的や背景

池田市社会福祉協議会から子どもに関する情報提供があった。金銭的な負担を理由に塾に通えない子どもやひきこもり傾向にあり少人数であれば塾に参加できるといった子どもがいるとのことであった。また、ゴールデンウィークや夏休みといった給食のない期間に、十分な食事が与えられていない子どもの存在、そんな課題も浮かび上がってきた。そこで、本来、当施設は老人ホームではあるものの、社会福祉法人の使命として、当施設を社会資源と考え場所や食事の提供を無料で行うこととした。さらには、こうした子どもたちの教育については、ボランティア団体の協力を得て、塾の講師、大学生ボランティアに協力依頼し、目的として無料学習塾を開催するに至ったものである。

実践内容

時期については、目的にもあったとおり長期休みに開催することに意義があり、第1回目をゴールデンウィークに、第2回目を夏休みに、それぞれ2回、8回の合計10回、総勢78人の子どもたちを対象に無料塾、無料の子ども食堂を当施設の集会所で開催した。内容としては、まず、食育という観点も併せ、栄養士が管理する当施設の食事メニューを提供し、その後、45分の授業を2コマ行い、休憩時間には池田市社会福祉協議会に提供していただいたフードパントリー用のお菓子を提供した。その後は、テレビを鑑賞する者、大人や大学生とゲームをしたりおしゃべりをしたり、思い思いにのびのびと過ごしていた。

活動体制

万寿荘の職員を必ず1名配属し、民生委員児童委員さんからご紹介いただいた地域の塾の先生に依頼し、池田市ボランティアセンターからボランティアの先生を1名と教員を目指している高校生1名をご紹介いただいた。また先生方のお手伝いに入って頂けるよう、大阪大学ボランティアサークル「フロンティア」に協力を依頼し、1日につき最低でも万寿荘職員を含めた3名が支援に入ることが出来るよう調整を行った。

実践の効果・成果

たくさんの地域の方とつながりを築くことが出来たことが一番の成果であった。民生委員児童委員の方に塾の先生をご紹介いただいたところからこの事業が始まり、池田市社会福祉協議会、池田市ボランティアセンター、池田市スクールソーシャルワーカー、大阪大学と皆様のご協力の元開催することが出来た。

その結果SSWやCSWの方から、「長期休み中に体重減少があり気になる子がいるから万寿荘の公益事業で何とかならないか」と相談があったので、以前から行っている地域公益事業の買い物送迎を利用しながら、遠方なこともあり毎回送迎を実施することで、さつきちゃん塾に来ていただけることになった。

今年度印象に残っている、 もしくは力を入れた事例

SSWとCSWからご紹介いただいた姉妹が印象に残っている。万寿荘の昼食をいつも「おいしい!」と目を輝かせながらおかわりをしていた。「万寿荘のごはんは、温かいものは温かいし、冷たいものは冷たい状態で出てくる。お茶も冷たいのと温かいの2種類ある。小鉢で一品ずつ出てくるのがすごい。デザートまでついてホテルみたいや!」と言ってくれた。毎回2人で、短い鉛筆1本と小さな消しゴム1つだけを握りしめて参加してくださっていた。勉強についてはこちらで購入しておいたドリルを「ここやってみよう!」「このテストやってみよう!」と意欲的に取り組んでいた。職員が笑顔付きの花丸を書くと「お母さんに見せる!宝物や!」と大変喜んでおられた。

また、始まったばかりのころは姉妹だけで会話をしていたが、回を重ねるたびに周りとのコミュニケーションをとってくれ

るようになったことも印象的であった。最終回では、万寿荘からのプレゼントの鉛筆と消しゴムやクリアファイルを抱きしめながら、「一生の宝物にする」と目を輝かせながら言っていた。職員一同愛くるしい子供たちのために、もっと何かできないか、今回の事業だけではなく、ここから広げていきたいという意見がたくさん出た。

課題と展望

【課題】

今回の課題として、1点目は学習の場としての周知がうまくいかなかったことだ。本来学習の場の提供を第一目標に置いていたが、食事を無料提供したことで学習の場というよりも子ども食堂と捉えられてしまうことがあった。今後学習の場ということを前面に出して生徒を募集することが必要である。

2点目として必要な子どもたちに必要な学習の場、昼食、居場所を提供できたのかという点だ。今回、SSWとCSWか

らご紹介いただいたケースのような子どもたちがもっといるのではないかと、今後地域との関係を広げながら対応していく必要がある。

【展望】

開催当初から掲げている「経済に左右されない学習の場の提供」を継続していく。その中で支援の必要な子どもたちやそのご家族に出来る限り寄り添うことできるように地域の諸団体との関係を深め共同していくことが大切だと考える。

選考委員からのコメント

- 子どもの学習支援を発端に、食事支援へと展開するなど、段階的に見えてくる地域課題、個別課題に対応することを意識した取組です。多様な専門職と連携していることがポイントだと思いました。
- 無料での食事提供、無償の学習塾という理想的な地域活動。マンパワーの確保も努力されています。

活動風景



子ども食堂「Smile for All」

～子どもたちの笑顔溢れる未来のために～



奨励賞(地域のつながり)

設立年月／昭和46年3月25日

法人所在地／大阪府箕面市白鳥3-5-50

理事長名／行松 英明

施設名／東大阪養護老人ホーム

施設長名／大西 智之

施設所在地／大阪府東大阪市新上小阪11-2

問合せ／☎06-6726-3031 ☎06-6726-3037

✉hoy@ace.ocn.ne.jp

担当：森田 淳也

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団

力している(株)アイビとは連携を図り、子どもたちの笑顔溢れる未来、地域共生社会の実現に努めています。

実践の効果・成果

食事メニューのアンケート化は「食楽」を生み、子ども食堂への参加意欲へと繋がりました。学習指導では大学生の学習ボランティアサークルと連携。専用の学習室にて個別学習で対応、特に夏休みの宿題支援は非常に好評でした。折り紙教室では入居者が講師となり、子ども達に寄りそい一緒に作品を作り上げています。子ども食堂を契機に地域の子どもたちとの距離が縮まり、職員や入居者が地域に出ると、これまで交流のなかった若年層との交流機会に巡り合うことができるようになりました。その巡り合いが次なる巡り逢いを生み、時には子どもたちからの相談を受けるようにもなりました。また、ひしの美保育園との連携は定期的な交流会の実施へと発展。これまでの、「地域にある高齢者施設」から「多世代が集う、いつでも気軽に立ち寄る施設」へと成長を遂げつつあります。

今年度印象に残っている、もしくは力を入れた事例

管理栄養士による栄養バランスを考慮した「食育」と、利用者アンケートをメニューに取り入れることで「食楽」の両面を念頭に置いたメニューを提供することができました。食後はレクリエーションタイム。学習や読書、グループゲームや折り紙教室等から利用者自身が選び参加。並行して実施するティータイムでは、ドリンクバーとお菓子を提供。お菓子は1人につき100ナノハ(施設内仮想通貨)と設定。お菓子個々に価格帯を設け、自身でチョイスすることで、買い物の楽しみと同時に、考え計算する過程を自発的に行うように致しました。

加えて、食事の配下膳やごみの分別廃棄、レクリエーションタイム後の後片付けを自身で行うことで子どもたちの自主性も支援しました。また、保育年齢のお子様のご家族の方々にとっては、子ども食堂が情報交換や交流を行う地域コミュニティの場となっている点が非常に印象的でした。

子ども食堂の利用が、施設主催の夏祭りや秋祭りなどの地域行事への利用へと繋がり、開始前に比べ幅広い方々のお姿が施設行事でお見掛けする等地域における施設の認知度と理解度の向上を実感することができました。

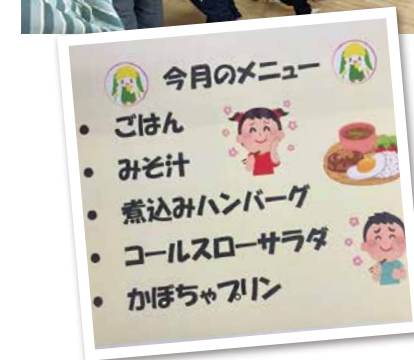
実践の効果・成果

子ども食堂運営により地域福祉に貢献できた一方で、利用人数の把握が難しい点から、これまでは子ども食堂のポスター掲示を周辺地域に限定していました。「貧困」という地域課題の解決に向けては掲示地域の拡充が必要であることから、段階的に実施地域を広げ、多くの方々と触れ合い、同じ地域で生きていることを実感できる居場所作りに取り組みます。今後も、地域住民の方々に施設をより身近に感じて頂くために、開催回数の見直しを行うとともに喫茶店営業や阪急百貨店のコラボ営業等、「いつでも気軽に立ち寄ることができる場所」であることも地域に向けてより一層の発信しながら地域共生社会の実現に寄与してまいります。

選考委員からのコメント

- 施設入居者が地域住民の一員であることを意識して、地域を支える立場であることを意識した取組みがポイントだと感じます。施設内仮想通貨の仕組みで、子どもも楽しめる活動となっており、工夫が凝らされています。
- 継続的に開催されており、完全無償でない部分も継続性を考えると現実的。子ども食堂は直接的な貢献に加え、施設を地域のコミュニティの場として認知する機会としても有効であると感じます。

活動風景



地域創発スペースを活用し、 結び目の実現



奨励賞(多世代交流)

社会福祉法人 四恩学園

設立年月／昭和27年5月

法人所在地／大阪市住吉区荻田4-3-9

理事長名／中西 裕

施設名／ふれ愛の館しおん

地域密着型特別養護老人ホーム

施設長名／佐藤 旭保

施設所在地／大阪市住吉区荻田4-3-9

問合せ／☎06-6606-8400 ☎06-6607-2511

✉shion-tokuyou@shiongakuen.or.jp

担当：森口 洋一

活動体制

【ごちゃまぜ食堂】

学生ボランティア団体にて、チラシ作成やSNSへの広報、当日の企画運営までをおこなっている。3年目となり、上級生から下級生へとつないでいっている。他の学生ボランティアも参入してきている。社会福祉法人職員は法人内の調整、必要物品の準備。

【シェア旅】

地域密着型特別養護老人ホーム職員の推薦により、学生ボランティア団体が面談し、聴き取りを行う。生活相談員は入居者とそのご家族とのつなぎ目を行う。

実践の目的や背景

社会福祉法人として、0歳～100歳までの地域の人々と、共に生きるために必要とするものを創造している。その活動はニーズに合わせ、多岐にわたり、多世代交流の場として創出している。これからの福祉の担い手であるソーシャルデザイン学科の学生ボランティア団体と協働し、地域のために発展した取り組みとなる。

地域には、様々な困難を抱える個人の福祉的課題を、他人事にならず、自然に話せる場の提供を行い、つながる為のアイデアを出し合っている。

実践内容

学生ならではの視点で広報し、地域のかけがえのない居場所となった「ごちゃまぜ食堂」。

時期／毎月第4土曜日

場所／地域密着型特別養護老人ホーム1階
あびんCOハウス

回数／月に1回

人数／学生ボランティア15名～30名
社会福祉法人職員5名

コロナ禍で社会との接点もなく、閉鎖的な空間にて生活する施設の高齢者のため、思い出の場所への模擬外出をプレゼントすることになった「シェア旅」。

時期／上映会は3ヶ月に1度

場所／地域密着型特別養護老人ホーム1階
あびんCOハウス

回数／入居者への聴き取りを月に1度か2度

実践の効果・成果

「ごちゃまぜ食堂」がコミュニティとなり、地域づくりの一翼を担う。社会福祉法人としても、あらゆる世代が集う場は、ぬくもりのある社会の実現に近づく結果となり、専門職が結び目になる機会になった。

「シェア旅」も思い出やエピソードを専門職と聴くことにより、生活史を考えるきっかけとなり、ご家族と共に物語を共有できることとなる。上映会を行うことで高齢者の心も動き、表情も豊かになるという成果も現れた。

社会や地域に貢献するための土壌が学生と共にいることで、地域創発スペースとしての拠点づくりも確立し、地域の方の生活の一部となり、会話が生まれ、専門職としても出会いを楽しめるようになり、多様で流動的な地域の中で個人の人生を支援するきっかけとなり、学生も幸せをデザインする魅力を感じたと考える。

今年度印象に残っている、 もしくは力を入れた事例

ごちゃまぜ食堂は、年数を重ねるごとに改良し、メニューも豊富になっている。集う場としても人が集まり、道路に面しているため、安全面にも配慮がある。上級生から下級生への引継ぎをみても、自分たちがしてきたことを継承するのではなく、経験してきたことだけを伝え、企画・運営を委ねている。新たな発想が捻出される土壌が育まれている。

シェア旅では入居者への聴き取りだけではなく、ご家族のいる自宅へ行き、過去の生活、過ごし方を同じ空間のなかで体現している。

課題と展望

課題と展望としては、地域密着型特別養護老人ホームの職員と「シェア旅」では自宅へ聴き取りに行くなどの機会がなく、話し合う事も出来ず。生活相談員が間の結び目となった。生活歴の共有が出来れば、ケアにも活かされる。「ごちゃまぜ食堂」では企画・運営に携わることが少ない。法人の行事などを通して新しい集いの場が創出される展開が考えられる。

選考委員からのコメント

- 学生の発想や意見を取り入れ、ご家族も巻き込んで活動されています。ごちゃまぜの活動の中に、「楽しむ」ことを大切にされている様子が分かりました。
- 学生ボランティア団体との協働が特徴的な事例。「ごちゃまぜ食堂」はコミュニティカフェとして認知され、「シェア旅」の取組みはユニークな実践です。

活動風景



学生とのコラボで 秋祭りを通して地域活性化



奨励賞(まちおこし)

社会福祉法人 秀幸福社会

設立年月／昭和54年2月
法人所在地／大阪府茨木市庄2-7-35
理事長名／中尾 巖
施設名／庄栄エルダーセンター
施設長名／中尾 巖
施設所在地／大阪府茨木市庄2-7-38
問合せ／☎080-8946-3999 ☎072-626-3340
✉cswelder@ab.auone-net.jp
担当：神野 享士

実践の目的や背景

少子高齢化が進む地域。自治会組織の衰退や子ども会の解散など負の一面をたどるそんな地域を何とかしたい。活気があって繋がりがああるそんな地域づくりを地域にある神社の秋祭りを通して仕掛けた取り組み。

私立中・高・大学が近隣にあり、日中の学生の割合が非常に多いことに着目し、その若いエネルギーを目的達成のため活用した実践紹介。

実践内容

これまで毎年、秋祭りの際は当施設前に神輿が来て、賑やかに神輿が担がれ、それを見ることを楽しみにしている入所者。担ぎ手不足で神輿の巡行も存続の危機にあることを知り、検討会の一員として参加して委員と課題を共有、これまで他地域の件で繋がりのあった近隣にある追手門学院中・高等学校ユネスコ国際研究部顧問に相談、協力をしていただくことを快諾していただいた。

10月20日の秋祭り本番に向け、当該学校の生徒約10名と6回の意見交換及び活性化に向けた具体的な取り組みについて検討する。生徒自身も数回にわたり、神社、その周辺地域を視察して、具体策を考案する。

活動体制

追手門学院中・高等学校生徒約10名により「地域活性化プロジェクトチーム」を結成。

地域の世話役、神社運営委員、地域の有志も加わり、約30名からなる実行委員で、秋祭りの内容について検討する。

地域の公立小学校を拠点として活動している和太鼓クラブにも協力を要請。10名の児童が神輿神社を出発する際の陣太鼓を披露。

実践の効果・成果

若い学生達が我が事として、地域のことを真剣に考える姿勢に宮司、地域世話役、神社運営委員等が感動し、これまでの地域の限られた人物で祭りを運営するのではなく、開かれた祭りという考え方に変わった。そして祭り本番、神輿の担ぎ手や幼い子供たち向けに生徒が考案した宝探しなどに参加する生徒、学生の姿に地域住民が笑顔満載で歓声をあげ、応援の拍手声援などを生徒、学生に届けていただき、秋祭りを通して地域が一体となることを実感した。

地域住民からも「今年の祭りは、活気があって最高!、来年も楽しみにしてるわ!!」との声をいただいた。追手門学院中・高等学校ユネスコ国際研究部顧問からは、秋祭りだけではなく、通年で今後も地域活性化のため協力いただけるとお言葉をいただいた。

11月3日に開催された地域の文化展でも、地域活性化プロジェクトの取り組みを展示して広く地域の方々に周知し、感心の声をいただいた。

今年度印象に残っている、もしくは力を入れた事例

- ①地域の現状把握
 - ・地域にある神社運営の現状と課題
 - ②学生等との課題の共有
 - ・地域にある中・高・大学在校生と膝を交えての意見交換
 - ・学生視点の尊重
 - ③地域住民(神社運営委員、秋祭り実行委員、協力者等)との協議
 - ・定例会議等に積極的に参加し、地域住民が秋祭りに対してどのように思っているのか(期待すること、課題に感じていることなど)
 - ④今回の取り組みをどのようにすれば継続できるか。
 - ・神社の秋祭りを含め、地域づくりは継続性が大事である。その方策の検討。
- 〈印象に残っていること〉
- ①学生たちの熱い思い
 - ・地元出身ではない学生たちにもかかわらず、地域の今後

のビジョンに対して真剣に考えてくれている姿勢に感動した。

- ②学校の協力的姿勢、現状課題
 - ・学内だけではなく、学外のフィールドワークの場を求めている姿勢。しかしながら、その場が数少ない現状。
- ③若者のエネルギーへの期待
 - ・地域住民をはじめ、地域の世話人、秋祭り実行委員等が、学生を自然体で受け入れ彼らのアイデアに傾聴し、協力する姿勢を示していただいたこと。

課題と展望

- 【課題】
- ①今回の取り組みで学校の窓口となっていた教諭が、異動や退職等された場合に学生の取りまとめ等をしていただける教諭がいるのか。
 - ②あくまでも住民主体となつての取り組みであることが、今後も維持継続できるか。

③活動を活性化するにあたり、その運営費用をどのように確保、捻出できるか。(今回の秋祭りについては、地域にある企業、店舗、個人等からの寄付金を充当した)

【展望】

- ①学校と関わりが持てたことで、若者のパワーとエネルギーが得られ、地域活性化に繋がる。
- ②学生と協働することで、様々な視点でアイデアが得られ同様の課題を抱える他の地域の参考になることを期待する。

選考委員からのコメント

- 学生との協働で秋祭りを盛り上げ、地域貢献の取組となっています。学生には、この経験が違う地域でも活かされる可能性を高め、長い目で見て、まちづくりの意識を養う教育的活動となっていると感じます。
- 年一回の取組みであるが、少子高齢化に対し、学生の力で地域活性化の一助となっていることは、素晴らしい。

活動風景



機能訓練型デイサービスを活かして 「VIVAスポーツ」で楽しみながら 地域の「健康寿命」を延ばす



奨励賞(フレイル予防)

社会福祉法人 上神谷福祉会

設立年月／平成9年6月18日
法人所在地／大阪府堺市南区逆瀬川1039番地
理事長名／上野 健治
施設名／特別養護老人ホーム槇塚荘
スポーツ高倉
施設長名／上野 貴広
施設所在地／大阪府堺市南区逆瀬川1038-2
問合せ／☎072-292-3900 ☎072-292-3939
✉takakura@makiduka.jp
担当：千代松 恵子

実践の目的や背景

平成30年1月にグループホーム高倉の1階でデイサービスセンタースポーツ高倉が開所しました。

デイサービスセンタースポーツ高倉は、機能訓練に特化したデイサービスで午前と午後の2単位制で運営しております。また様々なトレーニング機器を用意し専門的な知識のある運動スタッフが個別で運動指導を行っております。

このようなデイサービスを運営している中で、高齢者の方々が熱心に機能訓練に取り組まれる姿を見て地域の高齢者の方々にもこのデイサービスの場所を利用して健康増進に貢献できないかと思いました。

実践内容

日時／毎月第2土曜日 10:00～11:30
場所／デイサービスセンタースポーツ高倉にて
定員／20名 事前予約制
費用／無料
内容／デイサービスセンタースポーツ高倉の運動機器を使った運動と月替わりで職員が行うレッスンや講座

実践例① 令和6年11月 参加人数 11名

担当／特別養護老人ホーム槇塚荘 生活相談員・デイサービスセンタースポーツ高倉トレーナー・槇塚荘ケアプランセンターケアマネジャー等

内容／脳トレ体操、運動機器を使用した運動 等

実践例② 令和6年7月 参加人数 12名

担当／特別養護老人ホーム槇塚荘 機能訓練指導員・デイサービスセンタースポーツ高倉トレーナー・槇塚荘ケアプランセンターケアマネジャー等

内容／「第二の心臓 ふくらはぎを鍛えよう」、運動機器を使用した運動 等

実践例③ 令和6年6月 参加人数 14名

担当／スポーツ高倉トレーナー・特別養護老人ホーム槇塚荘 機能訓練指導員・槇塚荘ケアプランセンターケアマネジャー等

内容／「熱中症について」、運動機器を使用した運動

実践例④ 令和6年1月 参加人数 14名

担当／赤坂台デイサービスセンター機能訓練指導員・デイサービスセンタースポーツ高倉 機能訓練指導員・槇塚荘ケアプランセンターケアマネジャー等

内容／「ヒートショックについて」、運動機器を使用した運動
このように月替わりでさまざまなレッスンや講座を用意しております。いつも大笑いしながら地域の方々と一緒に体を鍛えたり、頭を使ったりしています。

活動体制

スポーツ高倉の管理者を中心とし槇塚荘から相談員、機能訓練指導員、ケアマネジャー、また法人内にある4つのデイサービスからは機能訓練指導員や介護福祉士、時には地域包括支援センターの職員も参加し、毎月4人から6人の職員が参加しています。

多職種の職員が参加することで介護保険の相談はもちろん、ご自身の将来についてご相談を受けることもあり、「誰に聞けばいいかわからない事」を気軽に相談できる場所にもなっています。

実践の効果・成果

当初地域のサロンや法人の催しで参加者を募り、沢山の参

加者の方々から「楽しい」とお声をいただいていた。しかしコロナ禍に入り数カ月活動を休止しました。再開した時には参加人数も減り以前より活気がない時期もありましたが、継続して参加して下さる方々が少しでも安全に運動を楽しんでいただけるよう工夫しました。密を避けるために参加者を半分に分け、マシーン組は中で、レッスン組は外で敷地内の駐車場(芝生の上)に椅子を並べ行うなど苦慮しながら継続してきました。

その後、コロナ禍も落ち着きを取り戻し「VIVAスポーツ」の参加者も少しずつ元に戻りたくさんの方に参加していただけるようになりました。参加者の方は皆さん健康への意識が高く施設に来られる際も30分かけて歩いてこられたり、「もっと体を鍛えたいから月に2回くらいやってほしい」とのお声や「近所にこんな方がいるから誘ってもいい?」など地域全体での「健康意識」が高まっているように感じます。

今年度印象に残っている、もしくは力を入れた事例

毎月法人の各部署からいろいろな職員が参加し地域の皆様と接する機会をいただいています。その中でベトナムからの留学生が参加した事がありました。ベトナムから単身日本に来て、日本語学校を経て介護の専門学校に入ったばかりの女性でした。日本語の勉強をしたとはいえ、まだまだ勉強中で日常会話を話すことはもちろん、聞き取りもあり得意とは言えません。

彼女のその日の目標は「全員の方と元気に挨拶をする!」というものでした。フロアの真ん中に立ち、自己紹介を緊張しながら終え、皆様の中に入っていくと満面の笑顔で次々と話しかけてくださいました。聞き取りにくい言葉に耳を寄せ優しく頷き、根気よく話を聞いてくださいます。また別の方は質問する言葉をゆっくりハキハキと、短く工夫し、彼女が分かるまで言葉を替え一生懸命伝えようとしてくださいます。そんな微笑ましい光景は私たち介護職が行うべき寄り添いの姿でした。これから異国で介護という仕事に携わる彼女にとって地域の方々にそのように優しく寄り添っていただいた事

は、日本の高齢者に対して良い印象を残し、介護という仕事に少し楽しみになったのではないかと感じました。

「地域の方のお役に立てば」と行っている私たちの活動ですが、地域の方々からいただく物も多いと改めて感じた出来事でした。

課題と展望

課題は継続していくことです。

まず1つ目は参加者の確保です。コロナ禍で参加者が減少したことがありましたが、それ以外にも送迎サービスがないので暑さや寒さ、また天候などの影響を受け参加人数が減ってしまう事があります。その都度近隣のサロンやイベントなどで告知し、新たな参加者を募っていますがその方々も継続して来ていただけるとは限りません。

2つ目は職員の確保です。中心となるメンバー以外にも法人から様々な職員に参加して欲しいと思っていますが、職員の配置上なかなか難しい時もあります。また職員が地域の方々との関わりを持つことへの意味を理解し、参加してもらう事が大切です。

参加者の方々には「vivaスポーツに行けば運動が楽しめる」と継続し参加頂けるよう内容を充実させていきたいと思っています。また職員にも地域の方々との関りが自身の業務に活かせるようこれからも法人全体で取り組んでいきたいと思っています。

選考委員からのコメント

- 地域の高齢者の健康意識を高めることに寄与した活動だと思います。また、運動だけでなく、参加者同志や施設職員との交流が生まれ、施設への理解が進み、本当に困った時に住民が頼りにできる状況が生まれているのではないのでしょうか。
- 自施設の設備や機能を有効活用する視点を評価したい。施設を地域に開放し、地域住民に利用してもらい、交流の機会をつくるのは、他の施設でも取り組みやすい実践のひとつ。

活動風景



社会福祉法人の存在意義と使命である 地域支援を持続可能な事業にするために



奨励賞（地域貢献）

社会福祉法人 八尾隣保館

設立年月／昭和10年5月
法人所在地／大阪府八尾市南本町3-4-5
理事長名／荒井 恵一
施設名／養護老人ホーム心合寮
施設長名／片山 弘美
施設所在地／八尾市青山町4-4-18
問合せ／☎072-925-1175 ☎072-925-1223
✉kuboyoshimood@yahoo.co.jp
担当：久保田 佳宏

年齢部門のさまざまな職種、資格をもったスタッフを集め、重層的な課題に対して取り組みを進めています。また、最近のなないろ会議には行政の地域福祉分野（子ども部局も）の方もオブザーバーとして参加していただき、地域で起きている事例や課題に対して共通認識をもってもらっています。その他にも地域で活動されている個人（ママさんが中心）や団体、企業さんとも地域イベントを開催するなど、地域協働を意識しています。

実践の効果・成果

地域支援を進める中で、対応や連携方法について共通するものが多い事に気が付きました。相談の入り口が貧困や居住、子ども、障がい等違っていても、アセスメントをしっかりと行い、一緒に考えながら課題を整理し、適切な制度や支援につなげるといった流れは同じだと感じています。使う制度はそれぞれ違っていても、伴走型の支援は同じだと感じており、カテゴリー別に対象者を見るのではなく、ひとりの人間として個別化の視点で対応ができるようになっていきます。スタッフのソーシャルワーカーとしてのスキルアップが大きな効果のひとつとなっています。また、この活動が人材の確保や育成、定着につながっています。

今年度印象に残っている、 もしくは力を入れた事例

今年2月に、大阪府災害派遣福祉チーム（大阪DWAT）の活動で金沢市内にある1.5次避難所へ入りました。そこでは一時的な避難先である1.5次避難所にいる方々のアセスメントを行い、適切な2次避難所等につなぐ役割を担っていました。その際、92歳の女性の件で引継ぎを受けました。その方は1.5次避難所に来て1ヶ月以上が経っていたのですが、なかなか次の行き場所が見つからない状況が続いていました。「皆様に迷惑をかけているのでもう死にたい」とご飯を食べなかったり薬を飲まなかったりとセルフネグレクト状態になっていました。

ご本人の希望やご意向を確認し、石川県の担当者や大阪府、親族との調整等を行い、居住支援法人のノウハウを使いながら、最終的には八尾市へ来てもらう形となりました。92歳の高齢者が一人暮らしをする際にはさまざまな課題があり、住居が見つからないことも多いのですが、普段からつながりのある大家さんがすぐに物件を調整してくれました。1週間後

にはお一人でサンダーバードに乗り大阪へ来てくれたのですが、家具や家電はレスキュー事業でストックしている物を使い、食材は食支援活動で頂いている物を使うことができたのですぐに一人暮らしを再スタートすることができました。

その後は、訪問看護等の利用も検討しましたが、まだまだお元気な92歳の方だったので制度は使わずに地域で活躍しているコミュニティナースの方々の力を借り、定期的な見守りを行うことになりました。孤独や孤立を防ぐためにも地域とのつながりを作る必要性を感じていました。

今では、大阪へ来て9ヶ月となりますが、元気に在宅で一人暮らしを続けられておられます。一人で買い物へ行き、ご飯を作り、穏やかに生活を送っています。「大阪へ来てよかった。また頑張るって生きようと思っている」と笑顔で話をしてくれています。

課題と展望

社会福祉法人の存在意義と使命として地域支援事業を進

めています。これを安定的目次継続的に活動するためには収益化もひとつの課題となっています。居住支援の補助金や見守り強化事業の委託費等の柱はありますが、今後は違った形での活動費の安定を目指しています。ブランディングを進め、地域支援事業の必要性を周知することで法人に対するファンを増やしていきたいと思っています。寄付や賛助会員等といったさまざまな方法を検討し、持続可能な活動に向けて取り組みを進めていきたいと思っています。

選考委員からのコメント

- 施設が地域貢献を行う意義を、多様な地域貢献事業を通じて、スタッフが実際に事業に参加し理解を深める仕組みができています。
- 高齢・児童・障がいの枠を超え、7事業で課題解決に取り組むこと、その事業への参画を通して職員のソーシャルワーク力向上につながっている点を評価したい。

実践の目的や背景

社会福祉法人八尾隣保館では、コロナ禍である2021年に高齢・児童・障がいの枠を超え、地域課題の解決を図る事業を立ち上げました。コロナ後に平穏に暮らせる地域社会であり続けるよう支援することが社会福祉法人の存在意義と使命と考え、法人内で取り組んでいた地域支援事業の7つを集約して活動をスタートさせました。また、スタッフから名称を募集し『地域支援事業なないろ』として地域や関係機関と連携しながら、さまざまな地域課題に対応できるように動き始めました。

実践内容

「生活困窮者レスキュー事業」・「中間的就労事業」・「居住支援法人」・「法人後見」・「食支援活動」・「要支援児童等見守り強化事業」・「災害時福祉派遣等活動」の7つの事業や活動をベースに法人全体で地域支援事業を展開していきました。それぞれに主担当は付くものの、それぞれの事業が連動したり、協力出来たりするように2ヶ月に1回なないろ会議を行い、情報共有やさらなる発展を検討しています。理事長や高齢分野の部長、児童分野の部長も入り、進捗状況や課題等も出し合いながら地域支援事業全体としての発展も目指しています。

活動体制

地域支援は高齢や児童等のカテゴリーで分けることが難しいため、法人内のさまざまな部署からスタッフを集めて活動をしています。殆どが兼務とはなりますが、児童部門や高



令和6年度 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会 社会貢献事業「優秀実践アワード(きらっと光る実践)」募集要項

1 目 的

この表彰は、地域における公益的な取り組みに関して、継続性や独自性、先進性等についての優れた取り組みを行っている、大阪府社会福祉協議会 老人施設部会の会員施設（以下、「会員施設」という）を表彰することにより、その取り組みにスポットを当て内外に情報発信を行うことを通して、会員施設に波及させるとともに、地域課題の解決および地域福祉の振興、さらに社会的評価の向上、ひいては福祉・介護人材の確保に資することを目的とします。

2 表彰種別

優秀実践アワード (きらっと光る実践) 「大賞」、「優秀賞」、「奨励賞」	【選定に当たっての着眼点】														
地域課題の解決および地域福祉の振興、社会的評価の向上、福祉・介護人材の確保のため、“きらっと光る”地域における公益的な取り組みを実践している会員施設を表彰します。	<table><tr><td>①継続性</td><td>・一過性の取組でなく、継続して行われている ・取組の内容の見直しが必要に応じ行われている</td></tr><tr><td>②独自性</td><td>・あまり紹介されていない取組、先行事例に工夫を加えた取組である</td></tr><tr><td>③先進性</td><td>・今後の地域を取り巻く環境を見据えた取組である</td></tr><tr><td>④展開性</td><td>・（あまり手を加えずとも）他の事業所での実施が可能である</td></tr><tr><td>⑤模範性</td><td>・他の会員施設での実施が望まれる取組である</td></tr><tr><td>⑥協働性</td><td>・地域住民や関係機関・団体等と連携した取組である</td></tr><tr><td>⑦地域貢献性</td><td>・個別あるいは地域課題の解決につながっている ・地域福祉の向上に寄与している</td></tr></table>	①継続性	・一過性の取組でなく、継続して行われている ・取組の内容の見直しが必要に応じ行われている	②独自性	・あまり紹介されていない取組、先行事例に工夫を加えた取組である	③先進性	・今後の地域を取り巻く環境を見据えた取組である	④展開性	・（あまり手を加えずとも）他の事業所での実施が可能である	⑤模範性	・他の会員施設での実施が望まれる取組である	⑥協働性	・地域住民や関係機関・団体等と連携した取組である	⑦地域貢献性	・個別あるいは地域課題の解決につながっている ・地域福祉の向上に寄与している
①継続性	・一過性の取組でなく、継続して行われている ・取組の内容の見直しが必要に応じ行われている														
②独自性	・あまり紹介されていない取組、先行事例に工夫を加えた取組である														
③先進性	・今後の地域を取り巻く環境を見据えた取組である														
④展開性	・（あまり手を加えずとも）他の事業所での実施が可能である														
⑤模範性	・他の会員施設での実施が望まれる取組である														
⑥協働性	・地域住民や関係機関・団体等と連携した取組である														
⑦地域貢献性	・個別あるいは地域課題の解決につながっている ・地域福祉の向上に寄与している														

3 対 象

- (1) 推薦対象(自薦・他薦問わず)

 - ◆ 次のいずれにも該当する施設であること。
 - ①大阪府社会福祉協議会 老人施設部会の会員施設
(特養分科会、養護分科会、軽費分科会、在宅分科会のいずれかに所属していること)
※法人あるいは施設として応募が可能です。また、施設連絡会としての応募も可とします。
※特別養護老人ホームや養護老人ホーム等に併設され、一体的に運営されている通所介護等の居宅サービスについては、「本体施設」に含めて表彰の対象とし、個別には表彰しません。
 - ②令和5年度の特別部会費(社会貢献基金)を納入済みである
- (2) 対象となる実践

 - ◆ 令和5年度の地域における公益的な取り組み(実践)であること。
 - ※「地域における公益的な取り組み」の具体的な事例については、老人施設部会 社会貢献事業「取り組み状況見える化シート」の項目を参考にしてください。



4 応募期限

令和6年10月31日(木)まで(当日、到着分まで有効)。

5 応募方法

- (1) 提出書類

 - ◆ 「社会貢献事業『優秀実践アワード(きらっと光る実践)』推薦書」
 - ◆ その他参考となる資料(2点まで)
- (2) 提出方法

 - ◆ 提出書類に必要な事項を記入し、応募期限までに下記提出先へメールでお送りください。
 - ※応募書類のデータ容量は、全てを合わせて、5MB以内を目安とします。
(5MBを超える場合は、「ギガファイル便」等を用いてメール送信してください)
 - ※書類を受理した旨のご返信をいたしますので、返信メールが届かない場合はお電話ください。
 - ※表彰施設の実践事例集(報告書)に掲載する場合、別途、原稿の校正や写真等の提供を依頼する場合がございます。
- (3) 提出先

大阪府社会福祉協議会
老人施設部会事務局
(担当:青木)
TEL:06-6762-9001
FAX:06-6768-2426
E-mail:
sakurasou@a-kaigo.gr.jp

6 スケジュール(予定)

令和6年8月20日	正式な案内を開始(老人施設部会配信メール)。
同 10月31日	応募期限(必着)※期限を超えた場合は受付できません。
同 12月～2月初旬	書類審査(①入選を決定→選考委員会に提出)。
令和7年2月中旬	選考委員会の開催(②表彰種別を選定)。
同 2月下旬	結果発表。
同 3月～4月	表彰施設の実践事例集(報告書)を制作。
同 5月頃	老人施設部会総会において表彰式。
同 6月以降	外部への情報発信(①報告書 ②入選施設一覧 ※仮称)。

7 選定方法

- ◆ 書類審査
選考委員会を構成する外部委員が、応募書類について「選定に当たっての着眼点」にもとづき内容を評価します。
なお、応募者が多数の場合は、老人施設部会 社会貢献事業推進委員会による一次選考(書類審査)を行う場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆ 選考委員会
書類審査を経た会員施設を対象に、老人施設部会が設置した「選考委員会」において選定のうえ、表彰施設を決定します。
※選考過程は公表いたしませんので、ご承知おきください。

(選考委員会の構成)		
学識者	大阪城南女子短期大学 現代生活学科 教授	前田 崇博 氏
関係機関・団体	国民生活産業・消費者団体連合会 業務部 マネージャー	阪田 啓太 氏
関係機関・団体	大阪府生活協同組合連合会 専務理事	中村 夏美 氏
関係機関・団体	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 常務理事	永井 美佳 氏
社会福祉施設	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設紫野 施設長／地域共生社会推進センター 代表	河本 歩美 氏

8 通知方法

選考の結果は、令和6年2月下旬頃にメールで通知します。

9 表 彰

令和7年5月頃に開催予定の「令和7年度老人施設部会総会」において、老人施設部会長名で表彰状を授与します。

10 その他

表彰された会員施設については、令和7年度老人施設部会総会の資料に掲載して紹介するとともに、Webサイト「さくら草ネット」において公表いたします。
また、表彰対象になった取り組み・具体的な実践については、老人施設部会発行の「報告書」への掲載や、入選した全ての法人あるいは施設を対象に「入選施設一覧(仮称)」の作成も検討いたしますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

11 お問い合わせ先

〒542-0065 大阪市中心区中寺1-1-54 大阪社会福祉指導センター2階
大阪府社会福祉協議会 老人施設部会事務局(担当:青木)
TEL:06-6762-9001 FAX:06-6768-2426 E-mail:aoki.jun@osakafusyakyo.or.jp

令和6年度
社会貢献事業
「優秀実践アワード(きらっと光る実践)」
報告書

●発行●

令和7年5月

●企画・編集・発行●

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会
社会貢献事業推進委員会

〒542-0065 大阪府中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

TEL:06-6762-9001

FAX:06-6768-2426
